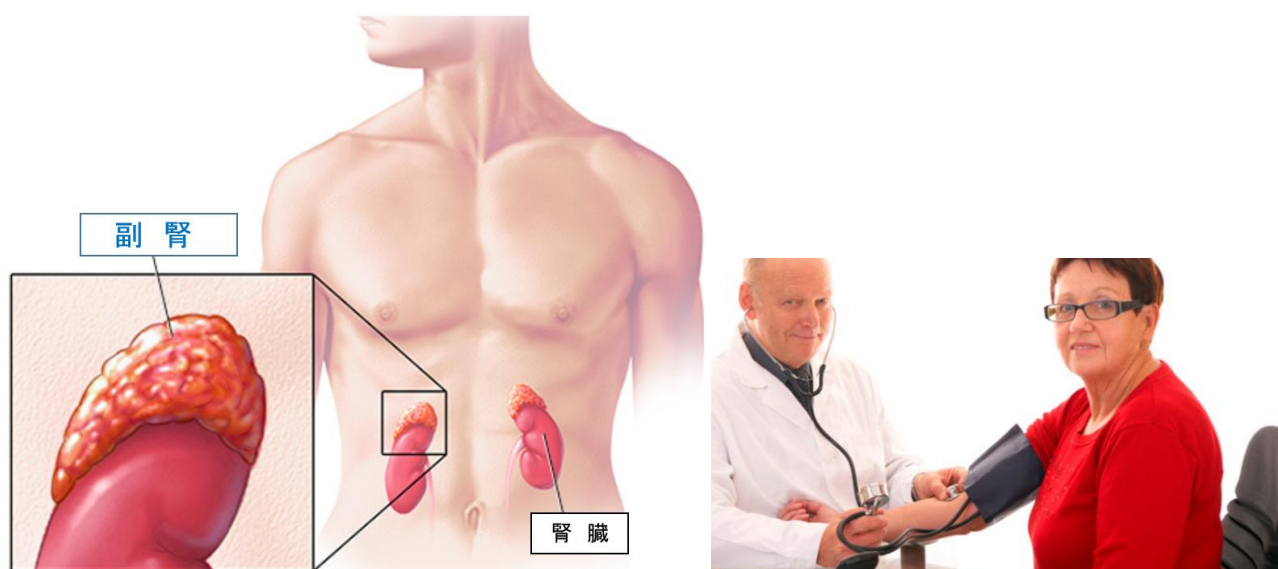


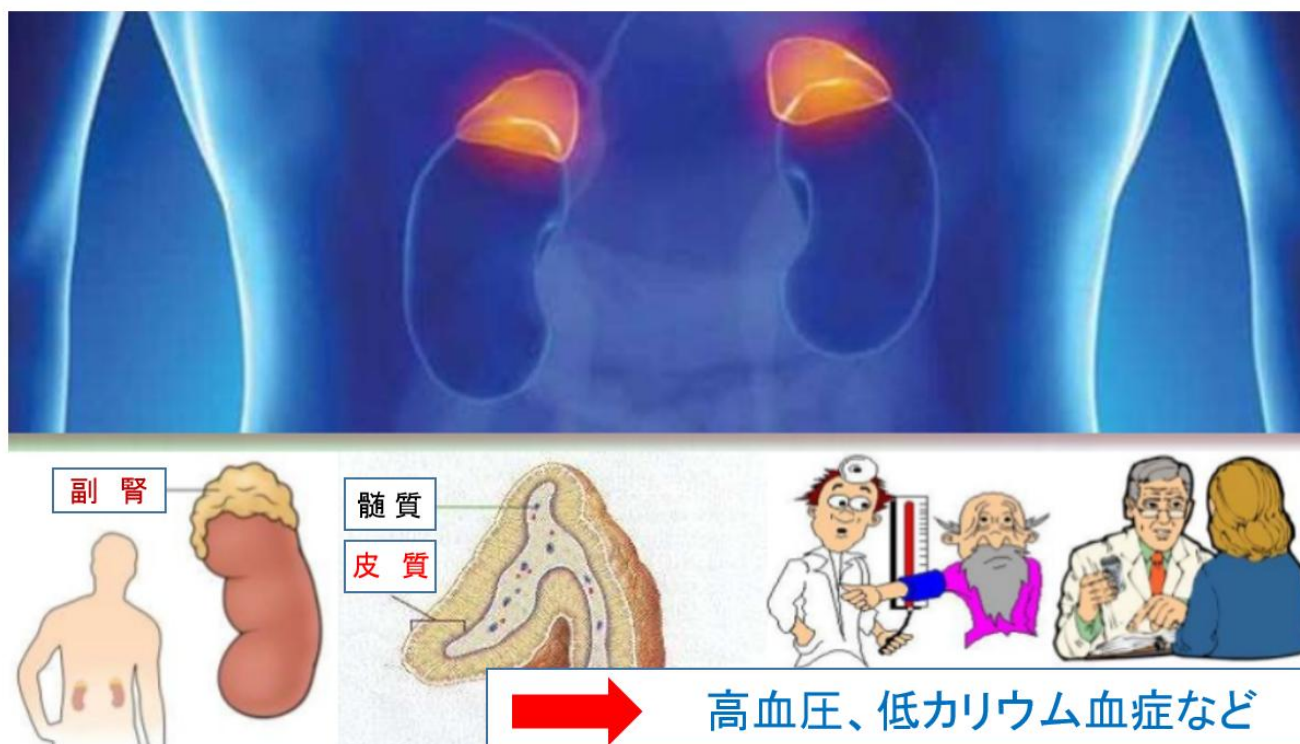
原発性アルドステロン症と高血圧について

アルドステロンは、副腎皮質ホルモンのひとつですが、副腎皮質の腫瘍または過形成によりアルドステロンの分泌が過剰になるために起こる病気が、**原発性アルドステロン症**です。**高血圧症**の患者さんの5～10%がこの疾患といわれています。



● 症状は

アルドステロンは腎臓に作用し、体のなかにナトリウムと水分を蓄えるために**高血圧**になります。また、尿のなかにカリウムを排泄する作用をもつため、血液中のカリウムが減り、筋力が低下したりします。



● 診断は

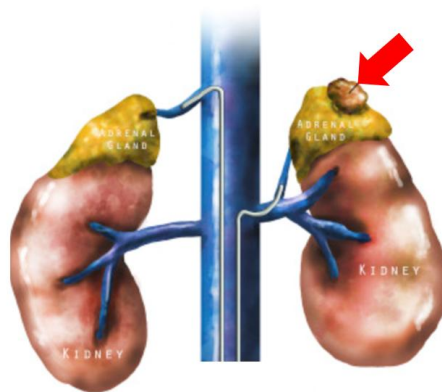
- アルドステロンの分泌過剰によって、レニンというホルモン（腎臓から分泌される）が抑制されていることを確認します。なお、これらのホルモンは姿勢によって変化するため、できるだけ安静・あお向けの姿勢で採血します。



- 腹部CT、MRI、核医学検査（アドステロール・シンチグラフィ）は副腎の腫瘍または過形成の描出に有用ですが、腫瘍はしばしば小さく、描出できないことがあります。

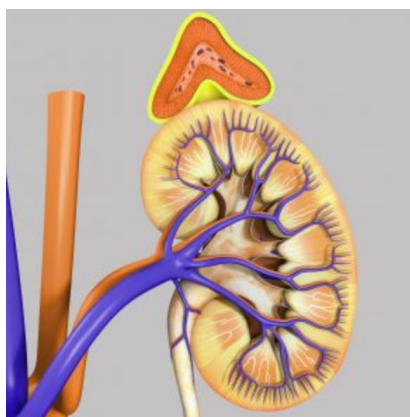


- 副腎近くの血管にカテーテルを挿入して、そこから採血する副腎静脈血サンプリングは、局在診断に最も有効な検査法です。



● 治療は

- 腫瘍によるアルドステロン症の場合、その腫瘍を摘出します。



- 腫瘍が両側にある場合や、過形成の場合は内服薬で治療を行います。



- アルドステロン症が治れば、血圧は徐々に低下しますが、病気の期間が長く続いた場合は、血圧が下がりにくいこともあります。

